

# 新製品 新技術紹介

## 自己修復型塗料 『自己治癒クリヤー®』

粕谷 忠晴

ナトコ株式会社 代表取締役社長  
〒470-0213 愛知県西加茂郡三好町大字打越  
TEL 0561-32-2285(代) FAX 0561-34-1080



ご経験がおありではないでしょうか。従来型の硬くて脆いハードコートでは、一旦付いた傷は消えることはありませんし、何らかの衝撃により欠けたり、剥がれたりし易いものだからです。一方「自己治癒クリヤー®」で塗装された携帯電話では、塗膜の有する修復力の原動力である大きな復元力と弾性力により傷付きが防止されるとともに外部からの衝撃力が緩和されます。この結果、長期に亘って美観が維持されることになるのです。商品が「自己治癒クリヤー®」で塗装されることで、より安心してご使用頂けるものと考えます。

”傷は付いても消えればいいじゃない”の「自己治癒クリヤー®」のコンセプトは、漸く、様々な業界の皆様へ受け入れられ始めたところであり、弊社としましては、今後も生活から傷を一掃し、更に多くの商品に適用されるべく努力を続けますとともに、新たな”うれしい機能”の創出に注力し、皆様のお役に立てる商品の開発に努めてまいります。

この度は名古屋市工業技術グランプリで栄えある市長賞を賜りましたこと誠に光栄に存じます。この自己修復型塗料「自己治癒クリヤー®」は研究者の自由な発想、特に逆転の発想から生まれた商品と言えるのではないのでしょうか。塗料は保護、美観の維持が大きな目的であります。傷が付くことにより保護、美観が著しく低下してしまえば本来の目的すら達成出来なくなります。更には、皆様の愛車やデジタルカメラ、ゴルフクラブ、釣り竿、携帯電話など身の回りの大切なものが傷だらけになり精神的にも憂鬱になった経験がおありではないのでしょうか。このような傷つきに対して、従来は塗膜をガラスのように硬くすることで解決しようとしていました。これが通常ハードコートと呼ばれる塗料材料でサングラス、眼鏡、携帯電話など多くの商品に現在使用されております。一方、弊社自己修復型塗料「自己治癒クリヤー®」は逆に塗膜をソフトで復元力のあるものとする事で傷付きを克服した”逆転の発想により開発した材料”であります。両者の違いを簡単に説明致します。まず、金属ブラシを用意していただきます。そして両方の塗膜を数十回強く擦ってみて下さい。従来

のハードコート処理品は傷に対する抵抗力は大きく、必死に耐えようとするのですが最終的には数本の傷が残ります。一方「自己治癒クリヤー®」塗料品は瞬間的には無数の傷が見えます。しかし、それは瞬時に、あるいは数秒後には消滅し、最終的には傷として全く残らないのです。この現象を目の当たりにしたお客様からは「これはマジックペイントだ」との声を頂くことがよくあります。しかしこれはマジックでもトリックでもありません。塗膜が傷を修復しようとする機能を最大にする工夫をしたからであります。この修復力は不思議なことに、全く正反対の性質を持つ塗膜成分として、硬いものと柔らかいものを共存させ、その成分同士が非常にうまくコラボレーションした場合に発現することが分かったのです。最大限の能力を引き出すための微妙な両成分のコントロールは、弊社の合成技術”ポリマーアロイ技術”に基づくものであります。この修復力は商品に適用された時、大きな効果が確認できます。具体例として、携帯電話で説明させていただきます。皆様は今お持ちの携帯電話には傷だけでなく、塗膜の欠け、割れ、剥がれなどありませんでしょうか。また、過去にそのような



韓国S社  
「自己治癒クリヤー®」使用モデル